

活動主題 「『少年の日の思い出』の魅力語り合う」

活動の価値

『少年の日の思い出』は、すぐには咀嚼しがたい強烈な読後感を読者に与える。なぜなら、宝物であった収集したチョウを自らの手によって一つ一つ粉々に押しつぶすという「僕」のやり場のない気持ちを読者に突き付けたまま作品が終わるからである。小学校の国語の教材で、主人公の素直な成長物語に多く触れてきた中学校1年生にとって、このような合理的な解決を見ない小説との出会いは、新たな文学観を得るきっかけになるだろう。この作品は、「客」が思い出を語り始めるまでの経緯を描いた「書斎の場面」と、「客」の思い出を描いた「思い出の場面」とで構成されている。書斎の場面では、巧みな情景描写によって暗く重たい思い出の場面の雰囲気作りがなされる。また、思い出の場面では、「僕」と「エーミール」の人物像を対比的に設定することによって、「僕」の葛藤や失敗が引き起こされる仕組みになっている。ラストシーンを読み終えた後に改めて書斎の場面を読むと、そこに幾つもの伏線を見つけることができる。以上のことから、『少年の日の思い出』は魅力を語り合うのにふさわしい作品であり、また魅力を語り合うことは文学的文章を読み味わう醍醐味を感じられる、意義ある活動であると考えられる。

本活動は「『少年の日の思い出』の魅力語り合う」を主題とし、様々な視点から魅力を見いだす活動を設定する。この活動を通して子どもは、巧みな人物設定や心情描写に気付くことができる。また、構成がもたらす効果に気付くことができる。さらに、作品の魅力をもとめることで、他の作品にも活用できる文学的文章の読み取り方に気付くことができるため、意義深い活動であると考えられる。

子どもの実態

本学級の子ども（〇名）は、これまでに『飛べかもめ』の学習で、「情景描写が登場人物の心情を間接的に伝えている」ことや「発言者の相手への気持ちが呼称に表れる」などの文学的文章の読み取り方を学んでいる。事前アンケートにおいて、「文学的文章を読むとき着目するのはどこか」という質問に対して、〇名が「登場人物の心情」、〇名が「登場人物の描写」、〇名が「情景描写」と回答した（複数回答可）。他にも「場面」、「表現技法」、「登場人物同士の関係」などの少数回答があり、「構成」と回答した子どもはいなかった。また、「『飛べかもめ』で学んだもの以外にも他の作品にも活用できる文学的文章の読み取り方があるか」という質問に対して、〇人が「ある」、他は「ない」「覚えていない」「知らない」と回答した。「ある」と回答した〇名の内容は、「主人公の会話や行動に気持ちが表れる」「……（三点リーダー）やー（ダッシュ）に気を付けて読む」などであった。

以上のことから、子どもたちは文学的文章を読む際に、登場人物の心情や描写、情景描写などの部分に着目して読んでいたことが分かった。また、その作品で学んだ文学的文章の読み取り方を他の作品に活用するという意識が薄いことが分かった。したがって、その場面における登場人物の心情だけでなく、全体を通して登場人物の心情や考え方がどう変化したのかを大局的に捉えたり、作品を俯瞰して文章の構成を捉えたりする視点を持つようにするとともに、『少年の日の思い出』で学んだ文学的文章の読み取り方を明確にし、他の作品にも活用できるよう援助する必要がある。

活動の援助観

そこで本活動では、作品に興味を持ち感想を書けるようにし、作品を読み取りながら、様々な視点（人物像、心情描写、構成など）から作品の魅力を見いだすことができるようにするとともに、『少年の日の思い出』から学んだ文学的文章の読み取り方を明らかにできるようにすることをねらいとする。そのために、次のような援助を行う。

- ・第一次では、作品に興味を持ち感想を書けるように、文学的文章を読む視点を確認したり感想を書く視点を提示したりする。
- ・第二次では、作品を読み取りながら、様々な視点から魅力を見いだすことができるように、書斎の場面に戻り、思い出の場面に関係する箇所に線を引き、伏線を探す場を設定する。
- ・第三次では、学んだ文学的文章の読み取り方を明らかにできるように、作品の魅力を書評にまとめる場を設定する。

○ 子どもの学習目標

『少年の日の思い出』の魅力
を見つけることができる。

○ 教師の援助目標

様々な視点から作品の魅力を見いだすとともに、学んだ文
学的文章の読み取り方を明らかにできるようにする。

活動計画（7時間）

次	時	学習活動・内容	子どもの問い と思考	援助のねらい・内容・方法
一	1 ①	1 作品に出会い学習課題を設定する。 (1) 範読を聞き初読の感想を書く。 ・ 文学的文章を読み取る視点 ・ 内容と形式という視点で (2) 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習課題 なぜ『少年の日の思い出』は長年 読み継がれているのか探ろう。</div>	どんな作品なのかな。 ↓ どんな魅力があるのか明らかにしたいな。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作品に興味を持ち感想を書けるようにする。</div> ・ 興味を持つことができるように、この作品が教科書に長年掲載されており、現在全ての教科書に掲載されていることを知らせる。 ・ 感想を書くことができるように、感想を書く視点を提示する。
本 時 5 ／ 5	二	2 作品の魅力を探る。 (1) 登場人物の関係と過去を回想する構成を捉える。 ・ 登場人物 ・ 主人公「僕」と対人物「エーミール」 ・ 現在と過去という構成 (2) 描写を根拠に「僕」と「エーミール」の人物像を捉える。 ・ 二人のチョウの愛し方の違い ・ エーミールに対する僕の思い ・ 大人のエーミールと子供の僕の対比 (3) 「僕」がクジャクヤママユを盗む前後の心情の変化を捉える。 ・ 欲望を押さえられない「僕」 ・ 罪の意識を上回るクジャクヤママユが損なわれたショック ・ 良心の目覚めによる自分への失望 ・ エーミールの容赦ない指摘に追い込まれる「僕」 (4) チョウを押し潰した「僕」の行為の意味を考える。 ・ 象徴 ・ 行動描写に表れる登場人物の心情 (5) 書斎の場面の役割を考える。 ・ 伏線 ・ 余韻 ・ 情景描写の効果	どこに着目すると魅力が明らかになるのかな。 ↓ 人物設定や心情の変化、構成に着目すると魅力が見えてくるんだな。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作品を読み取りながら、様々な視点から作品の魅力を見いだすことができるようにする。</div> ・ 作品の構成を読み取ることができるよう、「客」と「僕」が同一人物であることを押さえ、現在と過去という構成を確認する。 ・ 巧みな人物設定に気付くことができるように、「チョウが好きなのはどちらの方か」と発問し根拠を探すことで、二人の対比的な人物像をまとめる場を設定する。 ・ 巧みな心情描写に気付くことができるように、心情の変化を追う場を設定する。また「僕」を批判的に読む視点を持つことができるように、エーミールに視点を移して考える場を設定する。 ・ 言葉の価値に気付くことができるように、「一つ一つ」「粉々に」などの言葉に着目するよう促す。 ・ 「僕」の行為の意味に気付くことができるように、箱ごと捨てた場合との比較をするよう促す。 ・ 構成の効果に気付くことができるように、書斎と思い出の場面との関連を考える場を設定する。
	三	3 ①	3 作品の魅力を書評にまとめる。 ・ 情景描写による今後の展開の暗示 ・ 心情の変化を表す巧みな描写 ・ 魅力的な対人物の設定 ・ 読者に余韻を残す構成	級友はどんな魅力を見つけたかな。 ↓ 他の作品の魅力も探っていきたいな。

本時 公開授業2 第1学年〇組教室 第二次の5時(5/5)

本時の援助観

前時までには子どもは、思い出の場面を中心に、「僕」と「エーミール」の対比的な人物像の設定を捉えたあと、クジャクヤママユを盗む前後の「僕」の心情の変化を捉え、思い出の場面の最後の「一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった」という僕の行為の意味を考えている。そこで本時は、書齋の場面に戻り、この場面が果たす役割について明らかにする活動を設定する。

主眼

書齋の場面の役割に気付き、構成が読み手にもたらす効果についてまとめることができるようにする。

本時の過程

学習活動・内容	援助のねらい・内容・方法	形態	配時
<p>1 本時の方向性を確認する。</p> <p>(1) これまでの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「僕」と「エーミール」の人物像 ・「僕」の心情描写 ・「僕」の最後の行為の意味 <p>(2) 題名を確認する。</p> <p>(3) めあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> なぜ書齋の場面が必要なのか 解き明かそう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 本時の学習の見通しを持つことができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてを設定することができるように、「『少年の日の思い出』という題名からすると、思い出の場面だけで事足りるので、書齋の場面は必要ないのではないかと投げかける。 	一斉	10
<p>2 書齋の場面の役割を探る。</p> <p>(1) 書齋の場面の中に思い出の場面と関係する部分を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伏線 ・因果関係 <p>【期待される子どもの反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「その思い出が不愉快でもあるかのように、彼は口早にそう言った。」の「不愉快な思い出」は、エーミールに軽蔑されたことと関係すると思う ・「実際話すのも恥ずかしい」と客が思っているのは、過去に盗みをしたことを恥じているからだと思う <p>(2) 書齋の場面の情景描写を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情を表す情景描写の効果 ・今後の展開を暗示する情景描写の効果 <p>【該当箇所の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間の明るさは消え失せようとしていた ・窓全体が不透明な青い夜の色に閉ざされてしまった ・カエルが遠くから甲高く、闇一面に鳴いていた 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 書齋の場面の役割に気付くことができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・書齋の場面が思い出の場面の伏線になっている箇所に気付くことができるように、「書齋の場面の中で、思い出の場面と関係するところはどこか」と投げかけ、該当箇所に線を引く場を設定する。 ・書齋の場面があることで、今なお「客」が心に傷を抱えていることに気付くことができるように、「客」の描写に着目し、少年時代から現在まで、「客」がどのような気持ちで過ごしてきたのかを考える場を設定する。 ・書齋の場面の情景描写が思い出の場面の暗い展開を暗示する効果があることに気付くことができるように、色彩表現に着目したり、タブレットやランタンを用いて、書齋の場面の情景を具現化したりする場を設定する。 	個 / ペア / 学級 集団	30
<p>3 本時の学習を振り返り、構成の効果をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の場面への導入 ・本章の世界観、雰囲気づくり ・伏線を敷く 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 小説の構成がもたらす効果についてまとめることができる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・小説の構成がもたらす効果をまとめることができるように、『少年の日の思い出』の構成から学んだことを一般化して考える場を設定する。 	個 / 学級 集団	10

活動の評価

知識・技能	・事象や行為、心情を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。
思考・判断・表現	・「読むこと」において、描写を基に、場面の展開や登場人物の相互の関係、心情の変化などを捉えている。 ・「読むこと」において、根拠を明確にして、文章の構成や展開、表現の効果を考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	・学習課題に沿って学んだことや考えたことをまとめようとしている。

※ 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	時	学習活動	評価規準(観点：方法)	指導の個別化(手だて)
一	1 ①	1 作品に出合い、学習課題を設定する。 (1) 範読を聞き初読の感想を書く。 (2) 学習課題を設定する。 なぜ『少年の日の思い出』は長年読み継がれているのか探ろう。	・事象や行為、心情を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 (知：学習プリント)	個別に、前後の語や文脈に着目するよう促す。熟語であれば、漢字の意味から予想するよう促す。
二	1 ⑤	2 『少年の日の思い出』の魅力を探る。 (1) 登場人物の関係と過去を回想する構成を捉える。 (2) 描写を根拠に「僕」と「エーミール」の人物像を捉える。 (3) 「僕」がクジャクヤママユを盗む前後の心情の変化を捉える。 (4) チョウを押し潰した「僕」の行為の意味を考える。 (5) 書斎の場面の役割を考える。	・「読むこと」において、描写を基に、場面の展開や登場人物の相互の関係、心情の変化などを捉えている。 (思：学習プリント) ・「読むこと」において根拠を明確にして、文章の構成や展開、表現の効果を考えている。 (思：学習プリント)	個別に、該当箇所に線を引くよう促す。「僕」と「エーミール」では線の色を変えるようアドバイスする。 根拠となる表現や構成、展開について、『飛べかもめ』を例に挙げるなどして、既習の内容を振り返る。
三	1 ①	3 作品の魅力を書評にまとめる。	・「読むこと」において文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 (思：学習プリント) ・学習課題に沿って学んだことや考えたことをまとめようとしている。 (態：学習プリント)	個別に、初読の感想に付け足したことや学習していくうちに変わったことなどを箇条書きで書いてみるよう促す。 個別に、学習内容や学習用語を提示したり、二次の板書を撮った画像を共有し、学びを振り返ったりする。また、実際の書評を提示する。